序　論

上越市の特性と課題

1　上越市の概況

2　上越市の歴史

3　時代の潮流

4　上越市が直面する課題

5　上越市の地域特性と潜在力

序　論　上越市の特性と課題

1　上越市の概況

（1）位　置

○　上越市は、新潟県の南西部に日本海に面して位置し、北は柏崎市、南は妙高市と長野県飯山市、東は十日町市、西は糸魚川市に隣接しています。東京からは直線距離にして約200㎞で、現在の所要時間は、上越新幹線及びほくほく線で約2時間15分、高速道路で約3時間30分です。

○　上越市は、北陸・信越・関東甲信越・東北などの様々な地方区分に位置付けられる地域です。また、複数の主要な鉄道や自動車道、フェリー航路に加え、天然ガスの幹線パイプラインや基幹系光ケーブルが市内で結節するなど、国内を走る主要な交通ネットワークやライフライン[1]の要所に位置します。

○　さらに、上越市は日本海側のほぼ中央に位置し、対岸の韓国・中国・ロシアなどと近い距離にあります。この地理的な関係性は、ロシアや韓国へつながる光海底ケーブルが、日本海側では上越市のみから延びていることからもうかがえます。

○　北緯36度56分27秒（南端）～37度18分23秒（北端）に位置する上越市は、韓国のソウル（北緯37度34分）、ギリシャのアテネ（北緯37度58分）、アルジェリアのアルジェ（北緯36度12分）、アメリカのサンフランシスコ（北緯37度48 分）などの世界各都市と近い緯度にあります。指折りの豪雪地として国内では古くから知られる上越市ですが、同緯度でこれほど雪深いところは世界に類例がないと言われています。

上越市の位置

(2) 交　通

○　上越市は、古くから海陸交通が発達し、人や物資が行き交う地として栄えてきました。

○　輸送手段の中心が人力であった江戸時代、上越市は、金沢と江戸を結ぶ北国街道などの主要街道をはじめ、佐渡で発掘された金銀を江戸へ運ぶ重要な輸送経路上にあり、北国街道の支道として松之山街道などとも交錯していました。こうした街道の結節点や街道沿いには宿場町が発達し、高田と直江津はそれぞれ城下町と港町として、現在の市の発展の基礎となりました。

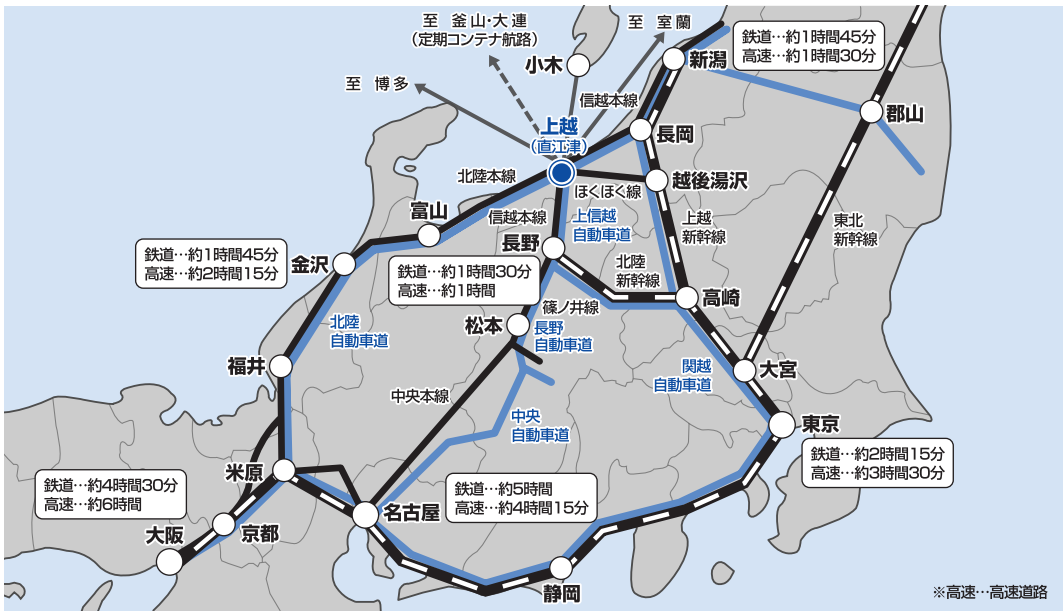
○　主要街道が交わる直江津や高田は政治の拠点としても適地であり、古くは国府が置かれたほか、戦国時代には上杉謙信の居城である春日山城、江戸時代には福島城や高田城などが置かれ、城下町として栄えました。また、直江津は北前船の寄港地及び当地の海産物の集散地として栄え、街道の発達は、当地で産み出される農作物の輸送などに大きく貢献しました。

○　明治時代に入ってからも、国内の鉄道創成期に直江津～関山間（信越本線）が開通するなど、交通の要衝としての地位が確立されており、そのことが工場立地などに有利に働きました。

○　現在は、北陸自動車道と上信越自動車道が接続するほか、複数の主要な鉄道（北陸本線、信越本線、ほくほく線）や、複数のフェリー航路（北海道・九州・佐渡航路）が市内で結節するなど、人や物が盛んに行き交う地となっています。

○　さらに、平成26（2014）年度末に開業予定の北陸新幹線や、上越魚沼地域振興快速道路[2]などの重要プロジェクトも進行しており、陸・海の交通ネットワークが整う有数の地方都市です。

上越市を結節点とする広域交通ネットワーク



(3) 地　勢

○　上越市は、東西約44.6㎞、南北44.2㎞の広がりを持ち、面積は約973㎢です。これは、全国で最も面積の小さい都道府県である香川県や2番目に面積の小さい大阪府の半分以上に当たり、北陸4県の市町村では、富山市に次いで第2位の規模です※。

○　市の周囲を見渡すと、豊かな海洋や美しい山並みに囲まれており、その恵みを受けた大地が広がっています。高田平野は、柿崎から直江津までの長さ約16㎞の海岸線を底辺とし、妙高市（旧新井市）の市街地の南方を頂点とした三角形状を呈しており、頂点から海岸線までの距離は約20㎞です。

○　市のほぼ中央には、関川・保倉川などが日本海に向かって流れており、その流域には、豊かな稲作地帯を支える沖積地[3]が大きく広がっています。

日本海に臨む美しい山並に囲まれた高田平野

○　この広大な平野を取り囲むように連なる、米山山地、東頸城丘陵、関田山脈、南葉山地、西頸城山地などの山々は、雪や雨水を貯え、大地に恵みをもたらす天然のダムの役目を果たしています。

○　平野の北側は日本海に臨み、関川の河口から東側の海岸線に沿って砂丘が発達しており、砂丘と平野の間には天然の池沼群が点在しています。

○　上越市の鮮やかな四季の彩りはこうした様々な地勢により与えられるものであり、風のまち、砂丘のまち、杜（もり）のまちなどと、時に様々な言葉で紹介されます。

※ 平成18年10月1日現在

(4) 気　象

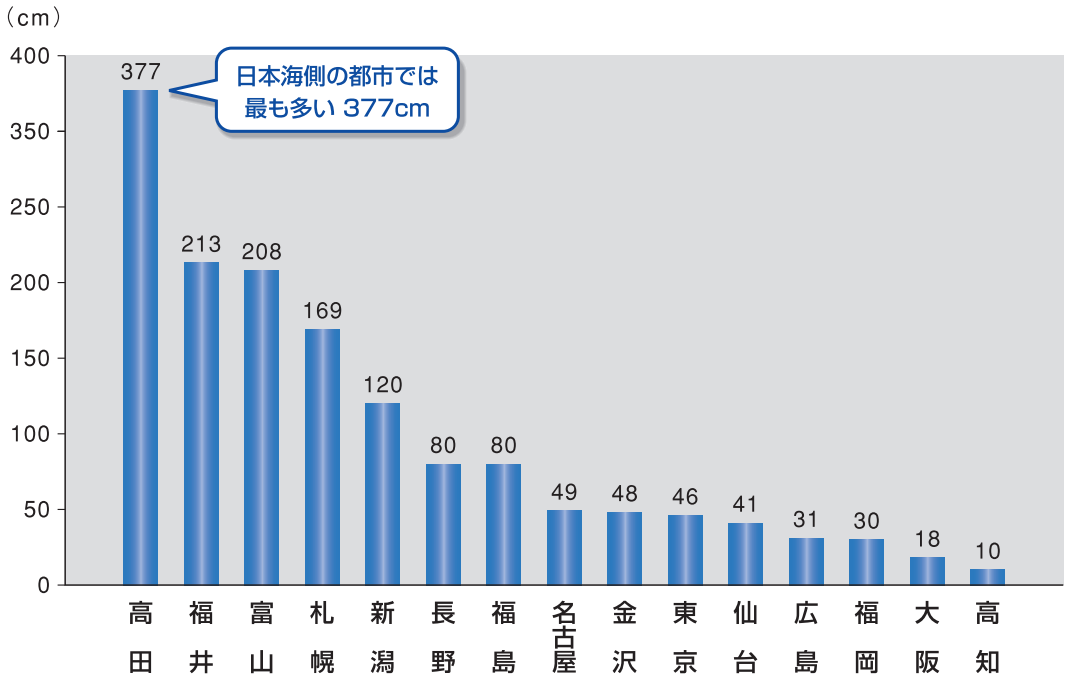
○　上越市は四季の変化がはっきりしており、冬期に降水が多く快晴日数が少ない典型的な日本海型の気候です。冬期には、日本海を渡ってくる大陸からの季節風の影響により大量の降雪があり、海岸部を除いた地域は全国有数の豪雪地帯となっています。

○　この自然環境を象徴するように、板倉区では昭和2年に8m18cmもの積雪量を記録しており、これは人が住んでいる所の積雪量としては日本一の記録とされています。

○　これほど雪深い地に人口20万人を超える都市が発達したことは、極めて珍しい例と言えます。例えば、冬期に積雪のある全国の主な都市を比較すると、上越市（高田）は最大積雪深の平均や、1m以上の積雪深の日数が目立って多く、他の都市を大きく引き離しています。

○　こうした自然環境は、古来より当地の人々の暮らしを支え、発展の礎となってきました。今日の豊かな風土や生活文化は、雄大で厳しい自然環境との共生を図り、豊穣の海や山がもたらす恩恵を受けることによって育まれてきたと言えます。

最大積雪深（主要都市との比較）　（統計開始年－1999年の春まで）



（注）地名は観測地点を表す

（出所）文部省国立天文台編「理科年表」

上越市の四季と暮らし

季節	年中行事など
春	冬が終わり、春が近づくと、乾燥した暖かい南風（フェーン現象）によって野山の雪が解かされ、川が増水する。数か月にわたり雪に閉ざされた生活から解放される春、妙高山中腹の「はね馬」や南葉山の「たねまきじいさん」を見ながら田植えが終わると、市内の至るところで豊作を願う春祭りが行われる。山菜採りや庭木の手入れも始まり、到来した春を実感する。
夏	梅雨が明けると、亜熱帯に近い夏の暑さが訪れる。30℃を超す真夏日は、九州や四国に近いと言われ、湿気も多いため蒸し暑さも感じる。海沿いでは、市内はもとより隣県の長野県からも多くの海水浴客が訪れ、にぎわいを見せる。
秋	実りの秋を迎える9月初旬は最も台風が多い季節だが、太平洋側ほど大きな被害には至らない。この時期、豊作を感謝する秋祭りが各地で行われる。
冬	11月の終わりごろには、あられやみぞれが降り、「雪おろし」と呼ばれる雷鳴が轟き始める。これを冬の合図として、人々は冬支度を急ぐ。市民の間では、「妙高山が3回白くなると南葉山に雪が来る」「南葉山が3回白くなると根雪になる」「米山が3回白くなると根雪になる」などと言い伝えられている。